(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B1)

(11)特許番号
特許第7685294号
(P7685294)

(45)発行日　令和7年5月29日(2025.5.29)

(24)登録日　令和7年5月21日(2025.5.21)

(51)国際特許分類

Ａ４３Ｂ　11/02　(2006.01)	Ａ４３Ｂ	11/02	
Ａ４３Ｂ　23/02　(2006.01)	Ａ４３Ｂ	23/02	１０１Ｂ
Ａ４３Ｂ　23/17　(2006.01)	Ａ４３Ｂ	23/02	１０３
Ａ４３Ｃ　1/02　(2006.01)	Ａ４３Ｂ	23/17	
	Ａ４３Ｃ	1/02	

ＦＩ

請求項の数　24　（全18頁）

(21)出願番号　特願2025-4379(P2025-4379)
(22)出願日　令和7年1月10日(2025.1.10)
審査請求日　令和7年1月14日(2025.1.14)
早期審査対象出願

(73)特許権者　502223552
株式会社 あとりえ岡田
兵庫県神戸市長田区神楽町２丁目３番３６号
(74)代理人　100166899
弁理士　鳥巣 慶太
(74)代理人　100085291
弁理士　鳥巣 実
(74)代理人　100117798
弁理士　中嶋 慎一
(74)代理人　100221006
弁理士　金澤 一磨
(72)発明者　林 真司
兵庫県神戸市長田区神楽町２丁目３番３６号 株式会社あとりえ岡田

最終頁に続く

(54)【発明の名称】　履物

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

アッパー内部において、踵部に配され、踵を包むように水平方向に切断した断面が半円弧状に形成された部分を含む、第１芯材と、

アッパー内部において、前記第１芯材の上方に配される第２芯材と、を備え、

前記第１芯材と前記第２芯材の一部下方が重なり合う部分と、前記第１芯材と前記第２芯材の間にアッパーを構成する素材が介在する部分が存在することを特徴とする、

履物。

【請求項２】

前記第２芯材は、一部下方が前記第１芯材と接着されていることを特徴とする、

請求項１記載の履物。

【請求項３】

前記第１芯材と前記第２芯材が重なり合う部分の上方に、前記第１芯材と前記第２芯材の間に前記素材が介在していることを特徴とする、

請求項１又は２記載の履物。

【請求項４】

前記素材が、履物の外側に露出していないことを特徴とする、

請求項１記載の履物。

【請求項５】

前記素材が、アッパーを構成する生地であり、

前記生地が外皮に覆われていることを特徴とする、
請求項４記載の履物。
【請求項６】
前記第２芯材よりも履き口側に、クッション材が配されていることを特徴とする、
請求項１記載の履物。
【請求項７】
前記クッション材が、前記第２芯材に貼り付けられていることを特徴とする、
請求項６記載の履物。
【請求項８】
履き口部の後方側が、履き口部の側方側よりも、クッション材の高さが高いことを特徴とする、
請求項６記載の履物。
【請求項９】
前記第２芯材は、上方よりも下方が幅狭に構成されていることを特徴とする、
請求項１記載の履物。
【請求項１０】
前記第２芯材は、上方に広がる略扇形を、上端が後方に凸の円弧状になるように丸めた、すり鉢状を高さ方向に切断した様の形状であることを特徴とする、
請求項９記載の履物。
【請求項１１】
前記第２芯材は、左右の縁部が、上方から下方に向けて後方に傾斜していることを特徴とする、
請求項１０記載の履物。
【請求項１２】
前記第２芯材が、前記第１芯材よりも、肉薄に形成されていることを特徴とする、
請求項１記載の履物。
【請求項１３】
前記第２芯材の厚みが、０．１ｍｍから２．０ｍｍの範囲であり、
前記第１芯材の厚み＞前記第２芯材の厚みであることを特徴とする、
請求項１２記載の履物。
【請求項１４】
前記第１芯材の厚みが、０．１ｍｍから２．０ｍｍの範囲であることを特徴とする、
請求項１３記載の履物。
【請求項１５】
前記第１芯材及び前記第２芯材のうち、少なくとも前記第２芯材が、ホットメルト樹脂で形成されていることを特徴とする、
請求項１記載の履物。
【請求項１６】
前記踵部の上方が、垂直方向よりも斜め後方に傾斜して延びていることを特徴とする、
請求項１記載の履物。
【請求項１７】
アッパーの内側面が、外面側よりも滑りやすい素材で構成されていることを特徴とする、
請求項１記載の履物。
【請求項１８】
タンをさらに備え、
前記タンの左右いずれか一方側が、アッパーに縫着されていることを特徴とする、
請求項１記載の履物。
【請求項１９】
前記タンの左右いずれか他方側が、アッパーに伸縮性部材を介して取り付けられていることを特徴とする、

請求項１８記載の履物。
【請求項２０】
前記タンが、履物の前後方向の途中で切り替えられていて、後方側が前方側よりも垂直方向に傾斜していることを特徴とする、
請求項１８記載の履物。
【請求項２１】
前記タンの切替が、後方側と前方側の境界を縫着することにより切り替えられていることを特徴とする、
請求項２０記載の履物。
【請求項２２】
シューレースをさらに備え、
前記シューレースが、ゴムのシューレースであることを特徴とする、
請求項１記載の履物。
【請求項２３】
アッパーの側面に、履き口から続くスリットが形成され、
前記スリットを閉じる方向に付勢するゴム材がアッパー内面に設けられていることを特徴とする、
請求項１記載の履物。
【請求項２４】
履き口の側方の位置に、前記アッパー内部にゴムベルト又はゴム紐が配されていて、前記ゴムベルト又はゴム紐が配されている履き口部分に、ギャザーが形成されていることを特徴とする、
請求項１記載の履物
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、２種の芯材を備える履物に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
スニーカーやビジネスシューズなど、従来の踵部のある履物を履くとき、靴べらなどを使用しないで履くと、靴の踵をつぶしてしまったり、踵に当たってダメージが加わったりする。
【０００３】
そのため、踵を潰さないよう履くには、靴を履く時に靴べらや手を使う必要があるが、毎回身体を屈めたり、座ったりして履く必要があり、面倒である。
【０００４】
一方、手を使わずに、また靴べらなしでも履ける履物が提案されている（例えば、特許文献１）。特許文献１の履物の特徴は、踵部の上端に、上方斜め後方に向けて延びる突片部が形成され、突片部には踵部に備えられる月型芯から延設された月型芯延長部を芯として備える一つの月型芯を備えている。
【０００５】
具体的には、特許文献１の履物は、後端にかかと部１４を有する短靴１１ａにおいて、かかと部１４の上端に、上方斜め後方に向けて延びる硬質の突片部１６を形成する。突片部１６にはかかと部１４に備えられる月型芯１７から延設された月型芯延長部１７ｂを芯として備えて硬度を得る。突片部１６の先端高さは履き口１５の前端高さよりも高くする。また突片部１６は、横断面形状において内面側が凹む湾曲形状にするとともに、突片部１６の先端１６ａの輪郭形状を丸くして、強度を高めるとともに踵に対する当たりを柔らかくする。
【先行技術文献】
【特許文献】

【０００６】
【文献】特開２０２２－１３９１５１号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００７】
しかし、特許文献１の履物では芯山部と突片部は一続きの芯材であるため、芯山部が後方に倒れる可動域に制限がある。また、前記の構造によって月型芯が踵部にがっちりと固定されてほとんど動きが許容されていないため、歩く際などに踵部のフレキシブル性がなく窮屈である。
【０００８】
そこで、本発明は係る点に鑑みなされたもので、上記従来技術の問題点を解決することを課題とする。具体的には、２つの芯材を組み合わせて踵部の上方に屈曲性を持たせることで、屈み込んだり、座ったりすることなく、立ったまま靴べらや手を使わずに履くことができるとともに、従来よりも脱ぎ履きしやすく、着用時に足にフィットして歩行しやすい履物を提供することを課題とする。
【課題を解決するための手段】
【０００９】
本発明の一の態様にかかる履物は、アッパー内部において、踵部に配され、踵を包むように水平方向に切断した断面が半円弧状に形成された部分を含む、第１芯材と、アッパー内部において、前記第１芯材の上方に配される第２芯材とを備え、前記第１芯材と前記第２芯材の一部下方が重なり合う部分と、前記第１芯材と前記第２芯材の間にアッパーを構成する素材が介在する部分が存在することを特徴とする。
【００１０】
この構成によれば、履物の踵部の上方まで芯材が配されることで、履くときに踵部がよれることなく、履物をスムーズに履くことができる。また、上方の第２芯材と下方の第１芯材とで、二つの芯材で構成され、かつ、これらの間にアッパーを構成する素材が介在されることで、ひとつの芯材の場合のように踵部が固くなりすぎず、屈曲性があるので、従来よりも脱ぎ履きがしやすい。
【００１１】
また、履物を着用した状態でも、芯材が２つに構成され、間に素材が介在されていることで、ひとつの芯材の場合のように踵部が固くなりすぎず、歩行時に干渉しづらく歩行しやすい。また、上下の芯材の間にアッパーを構成する素材が介在することで、履物全体としての収まりがよく、美観に優れる。
【００１２】
また、この履物は、前記第２芯材の一部下方が前記第１芯材と接着されていることを特徴とする。この構成によれば、第２芯材の一部下方が、下方の第１芯材と接着されることで、この接着位置を中心に第２芯材が屈曲しやすくなる。
【００１３】
また、この履物は、前記第１芯材と前記第２芯材が重なり合う部分の上方に、前記第１芯材と前記第２芯材の間に前記素材が介在していることを特徴とする。この構成によれば、第２芯材の一部下方の接着部分の上方に、素材が介在することで、上方の第２芯材部分の屈曲性が向上するとともに、スムーズな屈曲をえることができる。
【００１４】
また、この履物は、前記素材が、履物の外側に露出していないことを特徴とする。この構成によれば、芯材と当該素材が外側に露出しないため、履物全体の美観が優れる。
【００１５】
また、この履物は、前記素材が、アッパーを構成する生地であり、前記生地が外皮に覆われていることを特徴とする。この構成によれば、生地の外側が外皮に覆われることで、アッパー内部の生地が外側に露出せず、履物全体の美観が優れる。ここで、外皮とは、履物のアッパーを構成する外側の素材をいい、素材は皮に限られない。

【００１６】
　また、この履物は、前記第２芯材の、一部下方が前記第１芯材と接着されていることを特徴とする。この構成によれば、ひとつなぎの芯材とできるため、踵部の安定性が向上する。また、第２芯材の一部下方のみが第１芯材と接着され、上方が接着されていないことで、第２芯材の屈曲性を保持することができる。
【００１７】
　また、この履物は、前記第２芯材よりも履き口側に、クッション材が配されていることを特徴とする。この構成によれば、履き口側にクッション材が配されることで、スムーズに足を靴の中に差し入れることができ、また、クッション材の弾力性によって開口部の足当たりが良くなる。
【００１８】
　また、この履物は、前記クッション材が、前記第２芯材に貼り付けられていることを特徴とする。この構成によれば、クッション材の収まりがよい。
【００１９】
　また、この履物は、履き口部の後方側が、履き口部の側方側よりも、クッション材の高さが高いことを特徴とする。この構成によれば、スムーズに足を靴の中に差し入れることができ、また、スポンジ部材の弾力性によって開口部の足当たりが良くなる。また、履き口部の後方側、すなわち踵部側のクッション材が高く構成されていることで、履物を履いた後に足が履物から脱げづらく、履きやすく脱げづらい履物となる。
【００２０】
　また、この履物は、前記第２芯材が、上方よりも下方が幅狭に構成されていることを特徴とする。この構成によれば、歩行時に足が芯部に当たる部分を最小限にできるので歩行時の履き心地が向上する。また、第２芯材が上方よりも下方が幅狭に構成されることで、下方を第１芯材と接着した場合などにも、第２芯材の屈曲性を保持できる。
【００２１】
　また、この履物は、前記第２芯材が、上方に広がる略扇形を、上端が後方に凸の円弧状になるように丸めた、すり鉢状を高さ方向に切断した様の形状であることを特徴とする。この構成によれば、前記第２芯材が靴べらの役割を果たすので足を差し入れやすい。
【００２２】
　また、この履物は、前記第２芯材は、左右の縁部が、上方から下方に向けて後方に傾斜していることを特徴とする。この構成によれば、上方の第２芯材の左右の縁部が後方に傾斜していることで、履物を履く際に、第２芯材の縁部が前方に傾斜している場合に比べて、足に干渉しづらい。
【００２３】
　また、この履物は、前記第２芯材が、前記第１芯材よりも、肉薄に形成されていることを特徴とする。この構成によれば、第１芯材を肉厚にすることで、踵部及び靴の強度を確保するとともに、第２芯材を肉薄にすることで、第２芯材の屈曲性を担保することができる。これにより、第２芯材の後方へのしなりと第１芯材のソールと芯材を支える強度のバランスをとれるので、着脱が容易になるとともに、歩行時の安定性を確保できる。
【００２４】
　また、この履物は、前記第２芯材の厚みが、０．１ｍｍから２．０ｍｍの範囲であり、前記第１芯材の厚み＞前記第２芯材の厚みであることを特徴とする。この構成によれば、第２芯材の後方へのしなりと強度のバランスをとれるので、着脱が容易になるとともに、歩行しやすくなる。なお、厚みが０．１ｍｍを下回ると芯としての機能が損なわれ、２．０ｍｍを超えると芯材が固すぎてフレキシブル性が損なわれる。
【００２５】
　また、この履物は、前記第１芯材の厚みが、０．１ｍｍから２．０ｍｍの範囲であることを特徴とする。この構成によれば、踵を支える第１芯材についても、フレキシブル性と強度のバランスをとることができ、履き心地の向上とともに、歩行時に踵をホールドすることができる。

【００２６】
　また、この履物は、前記第１芯材及び前記第２芯材のうち、少なくとも第２芯材が、ホットメルト樹脂で形成されていることを特徴とする。
【００２７】
　一般的に踵に用いられる芯材（カウンター）は、ポリプロピレン（ＰＰ）やポリエチレン（ＰＥ）などの固い樹脂であるところ、第２芯材をこれよりも柔らかいホットメルト樹脂とすることで、第２芯材の屈曲性が増し、履き心地がよい。また、ホットメルト樹脂とすることで、ＰＥやＰＰよりも薄い芯材とできるので、履物全体のデザイン性も向上しえる。
【００２８】
　また、第２芯材をホットメルト樹脂とし、第１芯材をＰＰやＰＥとして踵部に強度を持たせて踵をしっかりとホールドする構成としてもよいし、第１芯材にもホットメルト樹脂とする構成としてもよい。第１芯材及び第２芯材をホットメルト樹脂とすることで、屈曲性がさらに増し、履き心地がよくなる。
【００２９】
　また、この履物は、前記踵部の上方が、垂直方向よりも斜め後方に傾斜して延びていることを特徴とする。この構成によれば、第２芯材が内包された踵部の上方が斜め後方に傾斜していることで、履くときに踵部がよれづらく、また履物の脱ぎ履きがスムーズにできる。
【００３０】
　また、この履物は、アッパーの内側面が、外面側よりも滑りやすい素材で構成されていることを特徴とする。この構成によれば、足をスムーズに履物に差し入れることができる。
【００３１】
　また、この履物は、タンをさらに備え、前記タンの片側がアッパーに縫着されていることを特徴とする。この構成によれば、タンがアッパーに縫着されていることで、足を入れる際にタンがずれないので、手を使わずに履くことができる。また、タンの片側のみが縫着され、他方側が縫着されていないことで、履物を履く際に、靴紐などが配される前部開口が、タンに規制されず開きやすいため、履きやすい。
【００３２】
　また、この履物は、前記タンの左右いずれか他方側が、アッパーに伸縮性部材を介して取り付けられていることを特徴とする。この構成によれば、タンの左右一方が縫着され、他方がゴムなどの伸縮性部材を介して取り付けられているので、足を入れる際にタンが伸縮性部材によって広がるので、足入れがしやすい。
【００３３】
　また、この履物は、前記タンが、履物の前後方向の途中で切り替えられていて、後方側が前方側よりも垂直方向に傾斜していることを特徴とする。この構成によれば、タンの後方側、すなわち履き口側が、前方側よりも立っているので、タンが寝てしまって履き口を塞いだりすることなく、足をスムーズに履物に差し入れることができる。また、履いた後も、タンの後方側がたっているので、歩行時に足に干渉しづらい。
【００３４】
　また、この履物は、前記タンの切替が、後方側と前方側の境界を縫着することにより切り替えられていることを特徴とする。この構成によれば、足への不快感をなくして、タンを固定することができる。ゆえに、脱ぎ履きがしやすく、歩きやすい履物となる。
【００３５】
　また、この履物は、シューレースをさらに備え、前記シューレースが、ゴムのシューレースであることを特徴とする。この構成によれば、着脱時に靴ひもを結ぶ必要がなく、手を使わずに着脱できる。また、ゴムの動きによって足を入れる隙間が広がるので、容易に足を履き入れることができる。
【００３６】
　また、この履物は、アッパーの側面に、履き口から続くスリットが形成され、前記スリ

ットを閉じる方向に付勢するゴム材がアッパー内面に設けられていることを特徴とする。この構成によれば、足を入れる隙間が広がるので、容易に足を履き入れることができる。

【００３７】

また、この履物は、履き口の側方の位置に、前記アッパー内部にゴムベルト又はゴム紐が配されていて、前記ゴムベルト又はゴム紐が配されている履き口部分に、ギャザーが形成されていることを特徴とする。この構成によれば、履き口部の側方が伸縮するので、足を入れる隙間が広がり、足を履き入れやすい。また、履物を履いた後は、足が履物から脱げづらく、履きやすく脱げづらい履物となる。

【発明の効果】

【００３８】

本発明の履物によれば、屈み込んだり、座ったりすることなく、立ったまま靴べらや手を使わずにスムーズに履くことができる。

【図面の簡単な説明】

【００３９】

【図１】本発明の第１実施形態にかかる履物の側面図。

【図２】履物１０のタン部分の斜視図。

【図３】アッパーの踵部分を切断した一部断面を表す側面図。

【図４】第１芯材と第２芯材を離した側面図（a）と、第１芯材と第２芯材とアッパー生地が重なり合う側面図(b)。

【図５】アッパー生地を除した状態の重なり合う第１芯材と第２芯材の背面図（a）と中央断面図（b）と横断面図（c）。

【図６】本発明の第２実施形態にかかる履物１００の側面図。

【図７】本発明の第３実施形態にかかる履物２００の側面図。

【図８】本発明の第４実施形態にかかる履物３００の側面図。

【発明を実施するための形態】

【００４０】

以下、本発明の一実施形態にかかる履物１０について詳細に説明する。なお、この実施形態により本発明が限定されるものではない。また、下記実施形態における構成要素には、当業者が置換可能かつ容易なもの、あるいは実質的に同一のものが含まれる。さらに、以下に記載した構成は、適宜組み合わせることも可能である。また、本発明の要旨を逸脱しない範囲で構成の種々の省略、置換または変更を行うことができる。

【００４１】

＜第１実施形態＞

（全体構成）

図１は、本発明の第１実施形態にかかる履物１０の側面図である。図２は、履物１０のタン部分の斜視図である。

【００４２】

図１に示すように、本発明の一実施形態の履物１０は、靴底を構成するアウトソール３０と、足の甲を覆うアッパー２０を備えており、アッパー２０が後端に踵周囲を覆う踵部４０を有している。

【００４３】

本実施形態においてアウトソール３０は、一例として比較的硬質のゴム材等からなり、自然と足が前に出るようにサポートするローリングソールを備える。また、アウトソール３０はゴム製以外に、例えば、革製、スポンジ製のいずれで形成されてもよい。また、アウトソールの厚みや靴底の模様は問わない。

【００４４】

アッパー２０は、使用者の前足部、中足部の一部、及び踵部を覆うアッパー本体２１を備える。アッパー本体２１のデザインや素材は問わない。

【００４５】

（タンの構成）

アッパー２０は、タン２２を備える。タン２２は、履き口２３から前方に塞がる開口を塞ぐように配されている。図２に示すように、タン２２は、前方端部から、縫着によってつくられる切り返し部２２ｃまでのタン下部２２ａと、切り返し部２２ｃからタンの上端までのタン上部２２ｂとを有する。縫着によってつくられる切り返し部があることで、タン２２が寝てしまって履き口を塞ぐことを防止する。また、タン上部２２ｂがたっているので、歩行時に足に干渉しづらい。

【００４６】

本実施形態においては、タン２２は、アッパー本体２１に左右の片側が縫着され、反対側が伸縮性のゴムベルトを介してアッパー本体に取り付けられている。これにより、タン２２が履き口２３並びにその前方の開口の開きが規制されずに開きやすくなり履きやすい。なお、タン２２は、左右の片側のみが縫着され、反対側が縫着されていない構成としたり、ゆとりを持たせた状態でアッパー本体２１に両側を縫着した構成としたり、タン２２をストレッチ素材にしてアッパー本体２１に両側を接着する構成とすることもできる。

【００４７】

アッパー２０は、タン下部２２ａ及びタン上部２２ｂを覆うように、アッパー本体２１の履き口２３をつなぐ紐部５０を有している。本実施形態において紐部５０は、足を入れる際に履き口の前方の開口が広がるように、ゴム製で形成されている。なお、紐部５０は、例えばコットン製やポリエステル製、麻製、アクリル製、シリコン製、スエード、リボンでもよい。

【００４８】

本実施形態のアッパー２０は、タン下部２２ａとタン上部２２ｂ、アッパー本体２１がすべて同じ素材で構成されているが、これに限らず、それぞれを別の素材で構成してもよい。

【００４９】

アッパー２０は、足を差し入れる開口した履き口２３を有し、履き口２３よりも前側の部分に前足部が収められ、履き口２３の後側の部分、つまり踵部４０が人の足の踵を支える。

【００５０】

本実施形態のアッパー２０は、内側の素材が、外側よりも滑りやすい素材で構成されていることで、足をスムーズに履物１０に差し入れることができる。

【００５１】

また、アッパー本体２１の踵部４０には、下方の第１芯材６０と上方の第２芯材７０が内包されており、踵部４０をつぶすことなく、スムーズに履くことができる。

【００５２】

（踵部及び芯材の構成）

次に、本実施形態の履物１０の踵部及び芯材について説明する。図３は、アッパーの踵部分を切断した一部断面を表す側面図である。図４（ａ）は第１芯材と第２芯材を離して側面から見た図であり、図４（ｂ）は第１芯材と第２芯材とアッパー生地が重なり合う状態を側面から見た図である（アッパー生地のみ後方部分の切断面を示す）。図５は、アッパー生地を除した重なり合う第１芯材と第２芯材の（ａ）は背面図であり、（ｂ）は中央断面図、（ｃ）は横断面図である。

【００５３】

図３に示すように、履物１０の踵部４０において、下方の第１芯材６０と上方の第２芯材７０は、一部が重なり合っていて、第２芯材７０の一部下方が第１芯材６０と接着されており、その接着された部分の上方には、第２芯材７０と第１芯材６０の間にアッパー本体２１を構成するアッパー生地２５が介在している。

【００５４】

また、本実施形態の一例として、第１芯材６０の厚みは１．２ｍｍであり、第２芯材７０の厚みは０．８ｍｍに構成されていて、第２芯材７０の厚みが第１芯材６０の厚みより肉薄となっている。この構成により、第２芯材の後方へのしなりを実現するとともに、そ

れよりも肉薄の第１芯材６０が踵部と芯材を支える強度を持つことができる。
【００５５】
なお、上記は本実施形態の一例であり、第１芯材６０の厚みは、０．１mmから２．０mm、好ましくは０．４mmから１．５mmの範囲、第２芯材７０の厚みは、０．１mmから２．０mm、好ましくは０．４mmから１．５mmの範囲で、かつ、第２芯材７０が第１芯材６０よりも肉薄であればよい。
【００５６】
図４、図５に示すように、第１芯材６０と第２芯材７０はホットメルト樹脂材を固めて、第１芯材６０が踵部４０のカーブに沿う形状とで形成されている。第１芯材６０は、比較的薄くフレキシブルなホットメルト樹脂であるが、踵を包み込むように水平方向に切断した断面が半円弧状に形成されていて、アウトソール３０とがっちりと接着されることで、踵をしっかりとホールドする強度を保つことができ、踵部４０及び履物全体の強度確保とともに、歩行もしやすくなる。
【００５７】
また、第２芯材７０は、略９０度から略１２０度の上方に広がる略扇形を、上端が後方に凸の円弧状になるように丸めた、すり鉢を高さ方向に切断したような形状であり、垂直方向よりも斜め後方に傾斜して伸びている。また、第２芯材７０は、上方から下方にかけて幅狭に構成され、下端が湾曲して形成され、左右の縁部が上方から下方に向けて後方に傾斜している。
【００５８】
また、第２芯材７０は、上記の構成であるので、足を差し入れやすくなっている。また、第２芯材７０が、上方よりも下方が幅狭であることで、歩行時に足が芯材に当たる部分が最小限になり、歩行時の履き心地が向上する。
【００５９】
これら第１芯材６０と第２芯材７０の構造により、第１芯材６０が踵をしっかりと保持して歩行を安定させるとともに、第２芯材７０が靴べらのような役割となり、足を差し入れやすくなっている。また、第１芯材６０と第２芯材７０は、薄いホットメルト樹脂であるので軽量化を図ることができる。
【００６０】
図３、図４に示すように、踵部４０の内部では、下方の第１芯材６０と、上方の第２芯材７０の一部下方が重なりあうように接着されている。また、接着された部分の上方の部分は、第１芯材６０と第２芯材７０は接着されておらず、その間には、アッパー本体２１を構成するアッパー生地２５が介在していて、アッパー生地２５が第１芯材６０と第２芯材７０に接着されている。
【００６１】
また、アッパー生地２５は、第１芯材６０と第２芯材７０の間から、踵部４０の上端付近までのびていて、第１芯材６０がない部分においては、第２芯材７０の外側（図３の後側）に接着されている。
【００６２】
また、アッパー生地２５の外側（図３の後側）には、履物１０の外観を構成する外皮２６が貼り付けられ、また第１芯材６０の外側（図３の後側）にも、同じく外観を構成する外皮２７が貼り付けられている。また、本実施形態においては、外皮２６は、アッパー生地２５の外側を覆い、アッパー生地２５とともに第１芯材６０と第２芯材７０の間に介在しており、外皮２６の下方が、第１芯材６０とともに外皮２７により外側から覆われている。
【００６３】
一方、第２芯材７０の履き口側（図６の前側）には、クッション材８０が貼り付けられていて、クッション材８０の第２芯材７０と反対側（図３の前側）には、人の足に触れるライニング生地２８が貼り付けられている。また、ライニング生地２８は、履き口側の上端から下端まで伸びている。

【００６４】
これにより、人が足を挿入する履き口の周縁にはクッション材８０が内包される構成となり、スムーズに足を履物の中に差し入れることができるとともに、クッション材８０の弾力性によって足当たりも良くなる。なお、本実施形態においては、履き口の周縁部に内包されているのはスポンジであるが、クッション性があるものであればよく、スポンジに限定されない。
【００６５】
またクッション材８０は、履き口の後方が側方よりも肉厚になっている。これにより、履物を履いた後に足が履物から脱げづらく、履きやすく脱げづらい履物となる。
【００６６】
以上の構成により、第１芯材６０と第２芯材７０がひとつなぎの芯材となり、全体で一定の強度を確保して、踵部の一定の安定性を確保しながら、第２芯材７０の一部下方のみが接着された構成であるので、接着部分を基準に、上方の第２芯材部分に一定の屈曲性を持たせることができる。また、第１芯材６０と第２芯材７０の接着部分の上方にアッパー生地２５が介在することで、屈曲性が増してフレキシブル性が高まり履き心地が向上しながら、履物１０の全体の収まりがよく美観が損なわれない。
【００６７】
第１実施形態の履物１０は、靴紐のスニーカーを例に説明したが、その他のスポーツシューズや他の形態の履物であってもよい。
【００６８】
＜第２実施形態＞
次に本発明の第２実施形態について説明する。上記した第１実施形態では、紐靴のスニーカーを例にしたものであるが、本発明はスニーカーに限らず、ローファーやビジネスシューズなどに適用することも可能である。以下、第１実施形態と同様の部材には同じ符号を付し、主に第１実施形態との相違点を中心に説明する。
【００６９】
図６は、本発明の第２実施形態にかかる履物１００の側面図である。第２実施形態の履物１００は、ローファーの形状をしているが、ビジネスシューズやフォーマルシューズ、スリッポン等他の履物でもよい。
【００７０】
本発明の第２実施形態の履物１００は、所謂靴底を構成するアウトソール１３０と、足を覆うアッパー１２０を備えており、アッパー１２０が後端に踵周囲を覆う踵部１４０を有している。
【００７１】
第２実施形態のアッパー１２０は、アッパー本体１２１を備えていて、その表側が、着用するにつれて足に馴染むように、一例として人工皮革で作られている。なお、アッパー本体１２１の素材は、本革、合成皮革、天然繊維、合成繊維などでもよい。
【００７２】
第２実施形態のアッパー本体１２１の内側の素材は、複数の素材を組み合わせることで、耐久性、履き心地、見た目を良くする。例えば天然皮革、合成皮革、合成繊維などを使用してもよい。
【００７３】
アッパー１２０は、甲の部分にストラップ１２４を備える。ストラップ１２４は、表側がアッパー本体１２１と同じ人工皮革であり、内側にゴム素材が配されている。これにより、足を入れる際にゴム素材が広がって、足の圧迫感を軽減する。
【００７４】
なお、ストラップ１２４の表側は、アッパー本体１２１の表側と異なる素材でもよい。また、甲にストラップが２個以上ついているデザインや、ストラップがないデザインとしてもよい。また、金具や、リボン、刺しゅう、フリンジ、ストーンなどの飾りがストラップについていてもよい。

【００７５】
本実施形態のアッパー１２０は、履き口１２３を直線的なカットに形成しており、これにより足をスムーズに履き入れることができる。また、履き口１２３の周縁に伸縮性のあるゴムを施して、さらに履きやすく構成することもできる。
【００７６】
本実施形態のアッパー１２０のつま先部はステッチが施されている。また、ステッチは、横一文字やＵの字、Ｗ字などの縫い目、穴やビジューなどの装飾があってもよい。また、つま先部の形が丸みを帯びた形状、または尖りのある形状、角張った形状でもよい。
【００７７】
第２実施形態の履物１００のアウトソール１３０は、滑りにくいようにラバー素材で構成されている。アウトソール１３０は、ゴム製のほか、革製、スポンジ製のいずれでも形成されてもよい。また、アウトソールの厚みや裏の模様、ヒールの有無は問わない。
【００７８】
また、履物１００はインソール１３１を備えている。インソール１３１は歩行時に足の疲れを軽減するために土踏まずをサポートする膨らみを備える。インソール１３１は歩行をサポートするものであり、足裏にかかる重さを和らげるようにクッションが設けられている。
【００７９】
また、インソール１３１は、一定程度のすべりのある素材で構成されている。これにより、履く際に履きやすくなっている。一方、インソール１３１がすべりすぎると、歩行時に履物の中で足がすべり歩行しづらくなるため、一定程度のすべりのある素材が好適である。
【００８０】
アッパー１２０は、足を差し入れる履き口１２３を有し、履き口１２３よりも前側の部分に前足部が収められ、履き口１２３の後側の部分、つまり踵部１４０が人の足の踵を支える。
【００８１】
また、アッパー１２０の踵部１４０には、第１芯材６０と第２芯材７０の２つの芯材が組み合わされて内包されている。第１芯材６０と第２芯材７０の２つの芯材が組み合わされていることで、踵部１４０は容易に折れたり潰れたりせず、またスムーズに足を履物内に差し入れられる履きやすい履物となっている。
【００８２】
さらに、踵部１４０の内部では、下方の第１芯材６０と、上方の第２芯材７０の一部下方が重なりあうように接着されている。また、接着された部分の上方の部分は、第１芯材６０と第２芯材７０は接着されておらず、その間には、アッパー本体１２１を構成するアッパー生地１２５が介在していて、アッパー生地１２５が第１芯材６０と第２芯材７０に接着されている。
【００８３】
また、アッパー生地１２５は、第１芯材６０と第２芯材７０の間から、踵部１４０の上端付近までのびていて、第１芯材６０がない部分においては、第２芯材７０の外側（図６の後側）に接着されている。
【００８４】
この第１芯材６０と第２芯材７０とこれらに介在するアッパー生地１２５との構成によって、芯材のみで構成された場合よりもフレキシブル性が増すため、履きやすさや履き心地が向上するとともに、芯材の収まりもよく履物全体の美観も損なわれない。
【００８５】
また、履き口１２３に沿って、アッパー内部の両側面にゴム材１５１が内包されていて、履き口１２３の両側方にギャザー部１５０が形成されている。ギャザー部１５０は、内側のゴム材１５１により伸縮する。そのため、ギャザー１５０の伸縮によって、足を入れた後にギャザーが縮まりフィット感が高まる。これにより、履物を履いた後に、歩行時に

足が履物から脱げづらく歩きやすい。
【００８６】
＜第３実施形態＞
次に、本発明の第３実施形態について説明する。上記した第１実施形態では、紐靴のスニーカーを例にしたものであるが、本発明は紐靴に限らず、スリッポンタイプのスニーカーなどに適用することも可能である。以下、第１実施形態と同様の部材には同じ符号を付し、主に第１実施形態との相違点を中心に説明する。
【００８７】
図７は、本発明の第３実施形態にかかる履物の側面図である。図７に示すように、履物２００は、第１実施形態の履物１０と異なり、紐部５０を備えない構成である。
【００８８】
その代わりに、履物２００には、履き口２２３から続く、前方に向けて延びる所定寸法のスリット２２６が、アッパー本体２２１の両側に形成されている。そして、スリット２２６に対応する位置に、アッパー本体２２１の内側に縫着され、スリット２２６を閉じる方向に付勢するゴムベルト２２７が配されている。
【００８９】
このスリット２２６とゴムベルト２２７によって、履物２００を履く際に、スリット２２６が広がることにより、履き口２２３が広がり、履きやすい構成となっている。また、履物２００に足を入れきった後は、スリット２２６がゴムベルト２２７によって閉じる方向に付勢されて、歩行時には脱げにくい状態となる。また、履物２００を履かない状態においても、スリット２２６がゴムベルト２２７によって閉じる方向に付勢されるので、履物２００の形状が安定する。
【００９０】
また、履物２００を履く際、上記したスリット２２６とゴムベルト２２７による履き口２２３の開きとともに、アッパー本体２２１の踵部２４０に内包された第１芯材６０と第２芯材７０とこれらに介在するアッパー生地２２５によって、第１実施形態や第２実施形態と同様の効果が得られる。
【００９１】
＜第４実施形態＞
次に、本発明の第４実施形態について説明する。上記した第１実施形態では、紐靴のスニーカーを例にしたものであるが、本発明はスニーカーに限らず、人工皮革のフラットパンプスなどに適用することも可能である。以下、第１実施形態と同様の部材には同じ符号を付し、主に第１実施形態との相違点を中心に説明する。
【００９２】
図８は、本発明の第４実施形態にかかる履物の斜視図である。図８に示すように、履物３００は、フラットパンプスであるが、本革のフォーマルシューズや、フラットシューズや、パンプスや、バレエシューズ等他の履物でもよい。
【００９３】
また、第１実施形態や第２実施形態と同様に、アッパー内部の踵部３４０には、下方の第１芯材６０と上方の第２芯材７０とこれらの間に介在するアッパー生地３２５とで構成されているので、第１実施形態や第２実施形態と同様の効果が得られる。
【００９４】
また、履物３００は、履き口に沿って、アッパー内部の両側面にゴム材３５１が内包されていて、履き口の両側方にギャザー部３５０が形成されている。ギャザー部３５０は、内側のゴム材３５１により伸縮する。そのため、ギャザー３５０の伸縮によって、足を入れた後にギャザーが縮まりフィット感が高まる。これにより、履物を履いた後に、歩行時に足が履物から脱げづらく歩きやすい。
【００９５】
また、アッパー内部の踵部３４０には、クッション材３４１が内包されている。クッション材３４１があることで、履きやすく、脱げづらく、足当たりがよくなる。特に、ギャ

ザー部３５０によって、踵部３４０の上方が足側に傾倒するようになるので、クッション材３４１によって、足当たりがよく、履いた時に痛くない。

【００９６】

また、履物３００は、踵部３４０の内面側に、スエード部３４２が貼り付けられている。このスエード素材により、足当たりがよくなるとともに、摩擦が生じるため、脱げにくい。

【００９７】

また、履物３００は、アッパー表面３２０にスムースレザーが用いられているとともに、アッパー内側のギャザー部３５０の両端付近から履き口に渡って、スムース部３２４を備える。なお、本実施形態では、内側のスムース部３２４は、アッパー表面側のスムースレザーよりも薄いスムースレザーとなっていて、履いた時に違和感がないように構成されている。また、履き口の内側のスムース部３２４の存在により、フォーマルな印象を損なわず、美観が優れている。

【００９８】

また、アッパーの内側は、スムース部３２４、スエード部３４２以外の主要部分が、ポリエステル素材を用いたポリエステル部３２３となっている。ポリエステル部３２３により、履きやすく、足当たりがよく、耐久性も高い。なお、ポリエステルは一例であり、その他の素材で他の合成繊維であってもよい。また、上記したその他の素材についても本実施形態の一例であり、その他の素材であってもよい。

【００９９】

＜５．その他の実施形態＞

以上の通り、図面を参照しながら本発明の好適な実施形態を説明したが、本発明は上述した実施形態に限定されないことはもちろんであり、特許請求の範囲に記載された範疇における各種の変更例または修正例についても、本発明の技術範囲に属するものである。

【０１００】

例えば、上記した実施形態では、第１芯材６０の上方と第２芯材７０の下方が重なりあうように接着された構成であるが、第１芯材６０の上方と第２芯材７０が重なり合いながら接着しない構成とすることもできる。

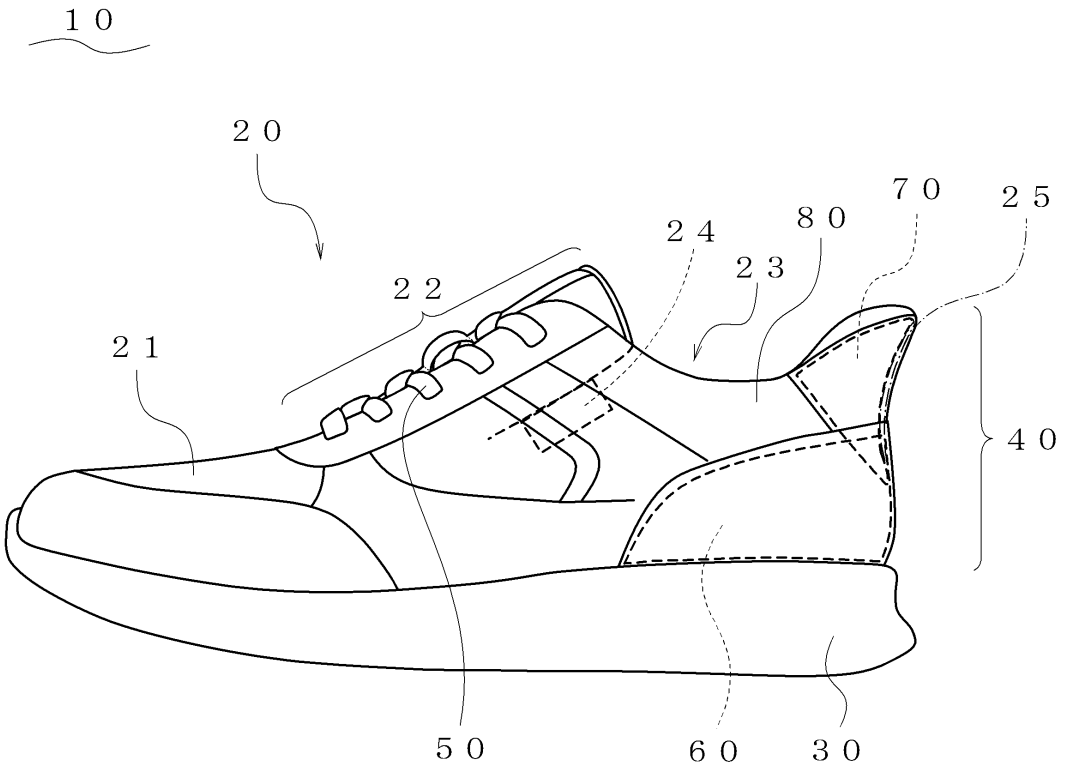
【符号の説明】

【０１０１】

１０　履物
２０　アッパー
２１　アッパー本体
２２　タン
２２ａ　タン下部
２２ｂ　タン上部
２２ｃ　切り返し部
２３　履き口
２４　ゴムベルト
２５　アッパー生地
２６　外皮
２７　外皮
２８　ライニング生地
３０　アウトソール
４０　踵部
５０　紐部
６０　第１芯材
７０　第２芯材
８０　クッション材
１００　履物

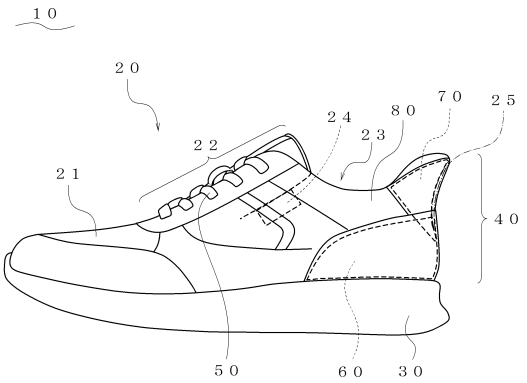
１２０　アッパー
１２１　アッパー本体
１２３　履き口
１２４　ストラップ
１２５　アッパー生地
１３０　アウトソール
１３１　インソール
１４０　踵部
１５０　ギャザー部
１５１　ゴム材
２００　履物
２２０　アッパー
２２１　アッパー本体
２２３　履き口
２２５　アッパー生地
２２６　スリット
２２７　ゴムベルト
２４０　踵部
３００　履物
３２０　アッパー本体
３２３　ポリエステル部
３２４　スムース部
３２５　アッパー生地
３４０　踵部
３４１　クッション材
３４２　スエード部
３５０　ギャザー部
３５１　ゴム材

【要約】
【課題】　立ったまま靴べらや手を使わずに履くことができ、履き心地のよい履物を提供することを目的とする。
【解決手段】　この履物は、アッパー内部において、踵部に配され、踵を包むように水平方向に切断した断面が半円弧状に形成された部分を含む、第１芯材と、アッパー内部において、前記第１芯材の上方に配される第２芯材と、を備え、前記第１芯材と前記第２芯材の一部下方が重なり合う部分と、前記第１芯材と前記第２芯材の間にアッパーを構成する素材が介在する部分が存在することを特徴とする。
【選択図】　図１

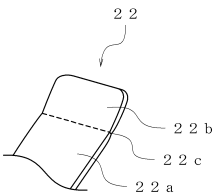

１０
２０
２２
２１
２４
２３
８０
７０
２５
４０
５０
６０
３０

【図面】

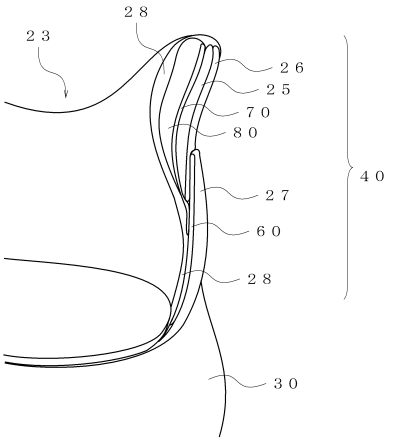
【図１】


１０
２０
２２
２１
２４
２３
８０
７０
２５
４０
５０
６０
３０

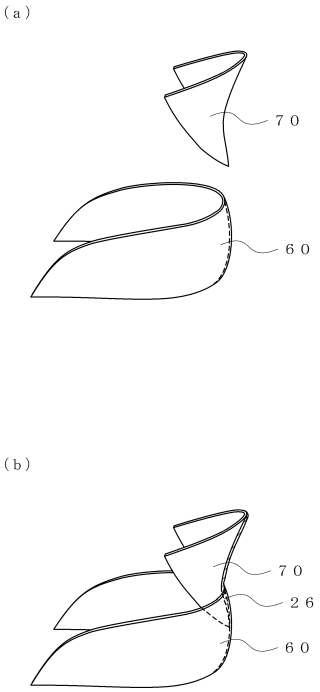
【図２】


２２
２２ｂ
２２ｃ
２２ａ

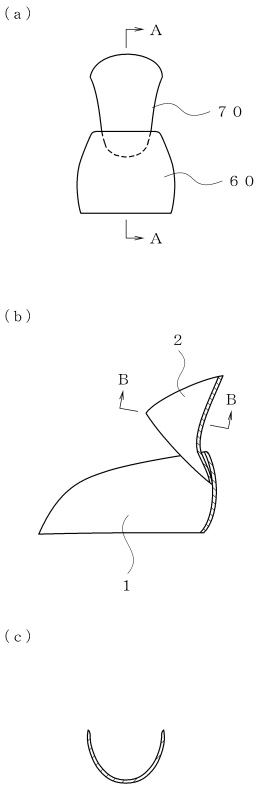
【図３】


２８
２３
２６
２５
７０
８０
４０
２７
６０
２８
３０

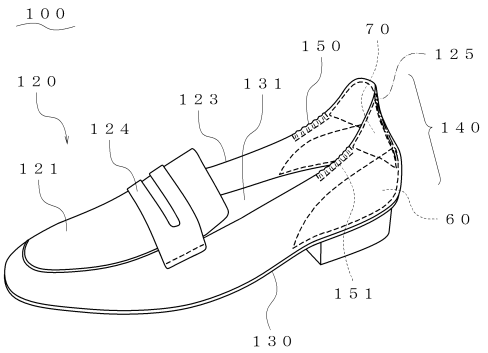
【図４】


（ａ）
７０
６０
（ｂ）
７０
２６
６０

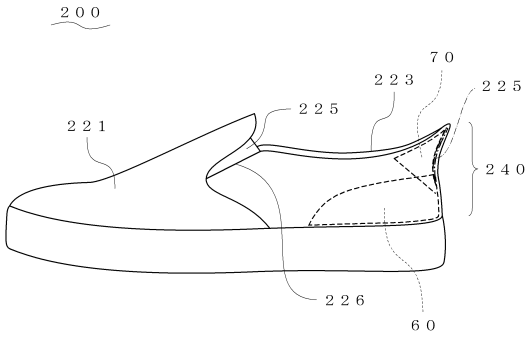
【図５】


（ａ）
Ａ
７０
６０
Ａ
（ｂ）
２
Ｂ
Ｂ
１
（ｃ）

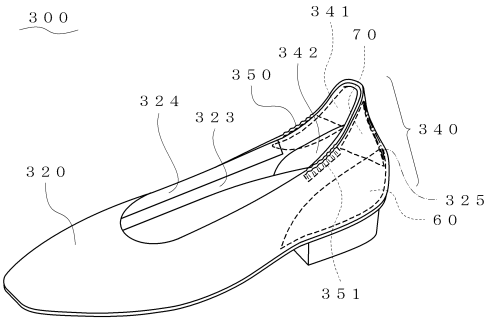
【図６】


１００
７０
１５０
１２５
１２０
１３１
１２３
１２４
１４０
１２１
６０
１５１
１３０

【図７】


２００
７０
２２３
２２５
２２５
２２１
２４０
２２６
６０

【図８】


３００
３４１
７０
３４２
３５０
３２４
３２３
３４０
３２０
３２５
６０
３５１

フロントページの続き

審査官　松本 泰典

(56)参考文献　特許第７６２７９８２（ＪＰ，Ｂ１）
米国特許出願公開第２０２３／０２５５３１７（ＵＳ，Ａ１）
特許第７４７９６５３（ＪＰ，Ｂ１）
特開２０２２－１３９１５１（ＪＰ，Ａ）
特開２００７－１２５３６５（ＪＰ，Ａ）
特開２０２４－１２６１０５（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野　(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ａ４３Ｂ　１１／００
Ａ４３Ｂ　２３／００
Ａ４３Ｃ　１／００